

令和4年度 北海道清水高等学校 学校評価(自己評価、学校関係者評価)

令和5年3月24日
北海道清水高等学校

項目	番号	評価の観点	分掌・年次としての取組(改善点・推進点)	自己評価	学校関係者評価
教育目標	1	教育目標は教育活動全体の指標として適切である	・教育目標、スクールミッションの実現に向け、育成を目指す資質・能力を意識した教育活動を行うことが概ねできていた。 ・育成を目指す資質・能力の到達状況を生徒の自己評価等で把握した上で教育活動の改善・充実に取り組む。	3.4	3.3
	2	教育目標は教職員の考えや保護者の要望を反映したものになっている		3.3	
重点目標	3	重点目標は当面する学校課題解決を図る目標になっている	・教科指導、特別活動等において、育成を目指す資質・能力を意識した計画及び取組がされていた。 ・学校の体制や生徒の状況が変化の中で、当面する学校課題等の解決に向けた各分掌、年次の重点目標を見直す必要がある。	3.1	
	4	育成を目指す資質・能力が分掌や年次及び教科の計画や取組に生かされている		3.0	
総務	5	校務の円滑な運営と効率化が図り、教育効果を高める条件整備に努めている	・学校行事等については、各教室モニターへの配信等を活用しながら、感染症拡大防止を図りながら実施することができた。 ・今年度のPTA活動について、それぞれの時期の感染状況を勘案しながら、総会は書面実施、合同部会及び支部懇談会は対面で実施した。次年度以降も感染拡大の状況を踏まえた実施方法を検討する必要がある。 ・PTA活動については、生徒減少による会員数減を受けて、支部の統合や活動内容の見直し等について検討する。 ・中学校訪問については、各中学校の進路希望等を丁寧に把握するため3期間行っており、来年度も継続実施する。 ・一日体験入学については、昨年度、今年度と3回実施したが、実施後のアンケートを踏まえ、次年度は2回の実施とする。	3.0	3.3
	6	家庭、中学校、関係団体、及び地域社会との連携を深め、PTA活動の活性化に努めている		3.0	
	7	本校総合学科への理解が得られるよう積極的な広報活動に努め、効果的な生徒募集を行っている		3.2	
	8	校内のICT実践の機器管理と有効運用の実践を行っている		3.1	
	9	ホームページ等を通して学校の取組を外部へアピールする実践を行っている		3.3	
教務	10	学習意欲の高揚を図っている	・観点別学習状況の評価について校内研修を実施し、教員間で情報共有を図った。次年度以降も授業改善につなげるための評価方法の工夫について継続的に研修を実施する。 ・令和5年度から開始する新系列の科目(2年次の選択科目)の授業内容の充実に努める。 ・総合的な探究の時間が、育成を目指す資質・能力を身に付けさせる学習の核となり、他教科との横断的な取組を推進する学びとなるよう、実施計画や指導体制の整備を進める。 ・1人1台端末を含めたデジタルツールについて、家庭等学校外での自学自習でも活用し、生徒の主体的な学習につなげる仕組みを構築していく。	3.0	3.3
	11	時間割の円滑な運用に努めている		3.4	
	12	成績処理・帳票システムの円滑な運用に努めている		3.4	
	13	教務に関わる研修体制の充実に努めている		3.4	
	14	図書館の利用度を高め、読書習慣と利用マナーの向上を図っている		3.1	
生徒指導	15	規範意識・倫理観の醸成を図っている(いじめへの対応も含む)	・全教員が共通認識をもって生徒指導を行うため、対応の確認や方向性の提示を分掌として積極的に行うことで、学校としてより効果的な指導が行えるよう改善する必要がある。 ・生徒指導に係る対応について、本校の現状や社会の動向に合わせて、既存の校則や申し合わせの確認、見直しを行う必要がある。 ・次年度、自己評価をを上げられるよう改善に取り組む。	2.8	3.3
	16	生徒の実態を把握し、よりよい生活習慣を育成している		3.0	
	17	全教職員の共通実践のもとに現状の生徒指導レベルの維持継続を図っている		2.7	
	18	社会で通用する人間教育を推進している		2.9	
進路指導	19	HR活動、産業社会と人間、総合的な探究の時間における進路学習を通して、生徒が将来の生き方を自発的・主体的に考え、目的意識を持って学校生活を送れるように指導・援助がされている	・1年次の「分野別ガイダンス」、2年次の「インターンシップ」を進路主導で進めることができた。次年度以降も同様に進めていく。 ・生徒に必要な指導・援助を行うため、場合によっては進路指導部が積極的に生徒と関わる機会を設けていく。	3.1	3.2
	20	HR担任・年次団・保護者との連携による組織的な指導を行い、生徒が自己の目標・個性・適性・能力等に応じて目標を設定し、自発的・主体的に進路を決定するための指導・援助を行っている		3.1	
1年次	21	基本的生活習慣、正しい判断力と行動力を身に付けさせている	・学習面については、進路チャレンジクラスを中心に基礎学力が定着してきている生徒も多く見られる一方で学習意欲低下により、成績不振に至る生徒も見られるため、朝学習等を通した継続的な取組が必要である。 ・新型コロナウイルス感染症の影響もあり、クラス内・年次内のつながりの希薄さが目立つことから、次年度以降、行事や委員会活動などでの活躍場面を増やす取組を進めたい。 ・学習面、生活面に課題がある生徒に対して、個別の対応に加え、保護者や校外・校内の関係機関、分掌等と連携・協力を図りながら指導を行っていく。	3.2	3.2
	22	学習環境を向上させ、学習に取り組む姿勢と基礎学力を定着させるための指導・援助を行っている		3.3	
	23	特別活動をおとして、仕事に率先して取り組む力と責任感を養っている		3.2	
	24	進路目標の実現に向けて、キャリアサポートプログラムに沿った個々の能力を育成し、社会性を育成している		3.1	
	25	年次をはじめ、教科、分掌等、組織的に生徒に関わり、生徒理解を深め、保護者との信頼関係を築いている		3.2	
2年次	26	規律を重んじ、社会人としての基本的習慣を身に付けさせている	・授業規律は定着している。進路を意識させることで自ら積極的に学習に取り組む雰囲気作りが必要である。 ・行事で積極的に協力できる、まとまりのある集団で、見学旅行等を含めて規律ある集団行動をとることができた。 ・「総合的な探究の時間」について、2年次での内容が多すぎたことから、次年度余裕を持たせた計画に修正する必要がある。 ・インターンシップは、個々が課題をもって取り組み、職業観と社会性を身に付けさせる貴重な機会となった。	3.2	3.2
	27	「総合的な探究の時間」を通して、主体的に物事を捉えて活動する力、探究する力を養っている		3.2	
	28	インターンシップに課題意識を持って取り組み、社会性と個々の能力の育成を図っている		3.4	
3年次	29	すべきことを自ら探して見付け、積極的に取り組もうとする主体性を備えた社会人としての基礎力を育成している	・HR指導の方針や計画による指導を年次団等の共通認識のもとで確実に進める必要がある。また、3年間を通した指導の積み上げや集団づくりについても到達の見通しをもって取り組む必要がある。 ・特に、基礎学力の定着や規範意識の高揚、目的達成のための実行力の醸成等について、年次毎の見通しを立てて系統的に身に付けさせるための取組が必要である。 ・年次の進チャレやクラス編成やクラス替え、分掌の年次係の配置や業務の連携、部活動の顧問の配置等についても検証が必要である。	2.7	3.3
	30	目的をしっかりと認識し、常に意識しながら行動する実行力を育成している		2.9	
	31	最高年次としての規範意識を持ち、生徒相互が切磋琢磨できる活気ある学校生活を送らせている		2.6	
	32	教科・分掌・家庭との共通認識のもと、生徒の個性に合った生徒指導と進路指導を行っている		3.0	